



民法理由書

三

第
一
〇
號

第十卷

第一〇號

十冊內

司法省
第七三號
寄贈圖書文庫

民法理由書

財產編
物權部終

(自第一條至第五條續至第九十二條)

司法省

記錄課

司法省
大官房
記錄課

第一號
第三架
第七

司法省記錄文庫
第四百九十五號
三冊內

牙四九五号

三册

(西法編物指部)

民法理由書 卷之三

照本第十一号

棚

236枚

紙數貳百叁拾六枚

城數馬譯

物
五

民法理由書財產編物權(終)第五

自才言十九條
重刊言九條

尺波用... (faint bleed-through text)

尺波用... (faint bleed-through text)

尺波用... (faint bleed-through text)

XB300

B I

14 C

此即千此ノ如キ場合ニ於テモ亦立入権ノ必要
 ヲ看ルコト有ル也
 第ニ百拾六条
 法律ヲ以テ隣地ニ立入ノ権利ヲ定メタルハ其
 目的ニ個ニシテ一ハ土地ヲ不用ニ屬セシムル
 ニトシテ一ハ建物ノ保存ヲ完フセシムルニトシ
 ルニ在リト雖トモ是カ為ニ他人一方ニ於テ收
 獲ノ保存ヲ害シ經濟上ノ利益ヲ遺ルコトナ
 中ヲ要ス此故ニ立法者ハ種々ノ利益ヲ調和ス
 ル為メ原則上築造又ハ修繕ノ工事ヲ為ス時期

ニ其レテ制限ヲ設ケ若シ收穫季節ニ近ツキ築造
若クハ修繕ノ為メ隣地ニ立入ヲ為ストキハ是
レニ由テ隣地ノ收穫ヲ害ス可キトモニ當ツテ
ハ此等ノ工事ヲ為スコトヲ禁セリ然レトモ
モ此禁示ハ絶対ノ者ニ非ラス江テ工事ノ急要
ナル場合即チ極メテ必要ニシテ猶豫ス可カラ
ザル場合ニ於テハ例外ナリト又法律ガ此例外
ヲ認めタリハ所以ハ一ニ建物ノ利益ハ收穫ノ利
益ヨリモ概シテ甚大ナルニ依リ蓋シ建物ハ
必要ナル時ニ於テ修繕ヲ施スコトキハ久シク存

在スルコトヲ得ル若シ之ヲ安カニシテトク得ズ其損害ハ再
 其滅失ハ之ヲ受カレトク得ズ其損害ハ再
 比回彼ス可カラスシテ且ツ甚々大ナルモノナ
 リ之ニ及ビテ收穫ハ年々ニ生ズルモノナリナリ
 故ニ一回之ヲ害スルコト有ルモ其一年ノ損害
 ニ止マシ而已ナラズ且ツ屢々收穫ハ全部ニ損
 害ヲ及ボカレシテ惟其一部分ニ止マルコト有
 ル可シ
 建物ノ築造又ハ修繕ノ工事が隣地ノ收穫ヲ害
 スルコトナキ季節ニ於テモ若シ隣地ノ所有者

若クハ占有者が不在ナル場合ニ於テハ均シク
 此工事ヲ為スコトヲ禁セリ然リトモ是レ
 又急要ノ場合ヲ以テ例外ト為セリ已ニ此
 ル如ク隣地ニ立入ヲ為スコト隣地ノ所有権ニ對
 シテ害ヲ加フルモノニシテ或ル条件ニ從ヒ法
 律ノ特ニ之ヲ許シタル場合トモ猶ホ隣地
 所有者ノ監督ヲ受ケテ之ヲ為スコト至当ナル
 ハ固ヨリ亦ヲ要セズ是レ法律ガ隣地所有者ノ
 不在ノ場合ニ於テ工事ヲ為スコトヲ許サレ
 所以ナリ所有者ノ不在ナルニ當テハ其親戚若

久ハ使用人等ノ財産ヲ管理スルモノ有リ得心
 之ト至トモ此ノ如キ人々カ所有者ノ劣ニ監督
 ヲ劣スハ事如所有者自カラ監督ヲ劣スノ優シ
 ルニ若カズ一方ニ於テ此規定ヲ設クルト同時
 ニ他ノ一方ヨリ之ヲ考フルトキハ所有者ノ不
 在ノ劣メ際限ナク建物ノ築造又ハ修繕ヲ遅延
 セシム可キニ訓ラズ此故ニ立法者ハ所有者ノ
 不在ガ一時ニ止マルニトヲ必要トセリ若シ然
 ラズニテ已ニ久シク不在ナルカ又ハ將來ニ向
 テ長ク不在ナル可キトキハ建物ノ所有者ハ之

レカ爲ニ空ニク損害ノ生ズルヲ埃ツ可キニ
テ必故ニ隣人ノ不在ナルニ実ハラズ本条第一
項ノ但書ニ從ツテ工事ヲ爲スコトヲ得心シ加
之ノミナラス實際ニ於テ不在者ハ自己ノ財産
ヲ監督セシムル爲メ特ニ代人ヲ設置ス可ク若
シ之ヲ爲サズシテ遂ニ其不在中ニ隣人ノ立入
ヲ蒙ムルコト有ルモ亦自カラ不平ヲ訴フ可キ
ニ此ヲサレナリ

本条第二項ノ目的トスル所ハ隣地所有者ノ便
宜ヲシテ勤メテ至カラシムコトスルニ在リ此

故ニ如何ナル場合ニ於テモ隣人自ラ承諾ヲ
爲スニ非ラサレハ建物ノ築造又ハ修繕ノ工事
ノ爲ニ隣人ノ住居ニ供スル建物ニ立入ルコト
ヲ得サレモノトセリ此處ニ隣人ノ住居ト稱ス
ルハ單ニ隣地ノ所有者一人ノ住居ニ非ラズシ
テ其家族使用人等ノ住居スル部分ヲモ包含ス
ルノミナラズ猶ホ此等ノ建物ノ直接ニシテ且
ツ必要ナル附属ヲ爲ス部分モ亦同一ナリトス
右ノ規定ハ其當ヲ得又ハモノ又ルコト明カニ
シテ特ニ其理由ヲ示スル必要ヲ有ス

立法者カ立入ヲ禁止スルハ軍ニ住家ニ関スル
ノニ此故ニ若シ其建物が住居用ニ執ラズニテ
工業若クハ牧獲ノ用ニ供シタル者ナレトキハ
此禁止ハ其適用ヲ受ケサル也
第二百七条

隣人ノ為メニ立入ヲ許スノ義務ハ法律ノ負ハ
シメタル所ニシテ此義務タルヤ全ク自然ノ理
ニ違合スルモノナリトモ是レモ是レカ由ニ立入
ヲ蒙ルリタル土地ノ所有者ハ依テ蒙ル所ノ
損害ニ付テ賠償ヲ求ムルノ権利ヲ失フ可キニ

此ヲ必何トナレハ經合法律上ノ負擔ナリトス
ルモ之レガ爲ニ其蒙ムル所ノ損害ハ至ク他人
ノ害爲ニ基クモノニシテ且ツ其害爲ヲ爲シタ
ル他人ハ是レガ爲ニ少カラザル利益ヲ得ル者
ナレバナリ

立入ヲ爲サレタレハ土地ノ所有者ガ蒙ムル所ノ
損害ハ場合ニ從ツテ甚ク多クアルニシテ時トシ
テハ工事ノ爲メ工人ノ往來專ニ妨_サリ_テ單ニ不
便ヲ蒙ムルニ止マリコト有ル可ク或ハ監督ヲ
爲スノ必要アルニ止マルコト有ルニシテ此等ノ

場合ニ於テ所有者ノ要約ス可キ償金ハ甚々小
額ナルヤシ或ハ實際ニ於テ至ク之シガ請求ヲ
為サバハコト屢々ナリ可シ蓋シ隣人ハ互ニ其
間ノ関係ヲ親密ナラシメニト欲スルモノナリ
ハナリ然レトモ此ノ如クナラズシテ立入ノ為
メ庭園又ハ田圃ヲ毀損シ若クハ土藏ノ建築等
ノ如ク其工事甚々久シキニ涉ル場合ノ如キニ
至テハ是シカ為ニ請求シ得バキ償金ハ決シテ
淺少ナラサル可シ又右ニ述ブル所ノ如ク立入
ヲ為シタルモノガ損害ノ償金ヲ弁償シタリ玉

トスルモ是が為ニ工事ニ使用シタル材料ノ残
餘ヲ取除キ及ヒ其使用シタル土地ヲ成ルベク
曰状ニ復セシムルノ義務ヲ受ナル可キモノニ
此ヲ云

第二百八条

本条以下ニ規定スル所ノ地役ノ貸地ノ場合に
於ケル通行ノ權利ト名クル所ノモノニシテ之
ヲ前数条ノ定メタル權利ニ比スルハ更ニ一般
経済上ノ利益ニ関スル大ナルモノトス
若シ一箇ノ土地ニシテ公道ニ達スルノ道ヲ有

セサレトキハ此土地ハ何人ト至トモ住居スル
コト能ハズ又耕作其他ノ方法ニ由テ之ヲ利用
スルコト能ハズ可シ経ツテ其人モ其土地ノ
利益ヲ受クルコトナク一般ノ経済ヨリ之ヲ看
ルモ此土地ハ何等ノ用ヲ為サズナリ此故ニ
袋地ヲシテ公道ニ達スル通路ヲ得セシムルハ
独リ其土地ノ所有者ノ利益ノ為ニ必要ナリ而
ビナラズ仍ホ一般ノ利益ノ為ニ必要ナリモノ
ナリ此ニ於テ乎其袋地ト隣接セシ土地ノ所有
者ノ私益ハ為メニ一步ヲ譲ラサルヲ得ズ

新入私益ハ失スニ
一 申テ請フカハ
三 得ニ

然リト多トモ袋地ノ場合ニ於ケル通行橋ト称
スルガ為ニ此地役ヲ以テ至ク土地ノ自然ノ位
置ヨリ生スルモノト看做サレトモトモ要ス何
トナレト此ノ如キ通行橋ノ必要ヲ生スルハ実
ニ土地ノ所有者が分割又ハ譲渡ノ要出ヲ為ス
ニ當ツテ不注意ナリヨリ生スルモノナレトナ
リ此ヲ以テ自然ノ地役ナリモノヲ認ムル法律
中ニ於テモ仍モ袋地ノ場合ニ於ケル通行橋ハ
之ヲ自然ノ地役中ニ掲ケル本法ニ於ケルト均
シク常ニ法律上ノ地役中ニ於テ是レが規定ヲ

為セリ各人が不注意ノ為メ通路十キ土地ヲ生
ゼシメタルトキ法律ノ力ヲ以テ其追矢ノ法律事
ヲ矯正シ其方法トシテ茲ニ法律上ノ地役ヲ設
ケタルモノナリ本条ノ地役ハ其原因ニ於テ已
ニ自然ノ者ニ非ラズ此一事ニ由テ考フルモ袋
地ノ所有者ハ隣地ニ向テ通路ヲ求ムルノ權利
アリモ此通路ニ對シテ多少ノ償金ヲ拂フノ義
務ヲ受ヤル可キコト也又此点ニ付テハ第二百
廿条ニ至テ規定スル所アリ可也又第二百廿三
条ニ由テ一ノ例外ヲ認メタリ

本条第二項ノ規定ハ多少ノ困難ヲ生じ得心キ
一 個人ノ問題ヲ決定セリ即チ法律上袋地ト稱ス
ルハ如何ナル土地ナルヤノ問題ニ関スルモノ
ニシテ本法ハ一人ノ土地ニシテ至ク公路ニ屬ス
ル能ハサルニ止ラサルニ其通路トスル所ハ一
ニ水路ヲ據ラサル可クサレバ場合ニ於テハ其
水路が徑令公流ナル場合ニ於テモ仍ホ之ヲ以
テ袋地ト看做スコトヲ得心キモノトセリ固ヨ
リ法律上ノ言語ニ從ハバ下流溝渠ノ堰割等ノ
如キハ一種ノ公路ト看做ス可ク而シテ此種類

ノ公路ハ陸路ト相隣接スルモノナリ然レトモ
 水路ニ依ル交通ハ陸路ノ交通ニ比スレハ甚如
 因近ニシテ時トシテハ危嶮ノモノナリコト何
 人ト多トモ認ム人所ナリ故ニ若シ大ナル土地
 ニシテ他ト交通スル為メ軍ニ水路ヲ有スルニ
 止マルトキハ實際ニ於テハ然レト常ニ充分ノ
 利用ヲ為スコト能ハサル而已ナラズ軍ニ
 用ニ供スルモ甚如不便ヲ感スルニ若シ其通路
 又ハ所ノモノ軍ニ水流又ルニ止ラズニテ水路
 ニ接スル可カラサル場合ノ如キ又殊ニ其海

持三十八... 女キ又強ニ其海

路ガ波浪常ニ高クシテ交通甚カ困致スル場合
ノ如キハ益々其土地ヲ利用スル能ハサレ可
此故ニ立法者ハ縦令至ク通路ヲ有セザルニ
ラズト多トモ甚カ不便ナリ通路ヲ有スルニ止
マレトキハ之ヲ以テ左ク通路美袋地ト曰一ニ
看做スコトヲ得心キモノト為セリ惟如何ナ
通路ハ甚カ不便ノモノニシテ袋地ト曰一ニ看
做スコキモノナレバハ事實ニ屢ニハ問題ニシ
テ其事實ハ土地ノ状態ニ依リ種々ナリ可シ然
ツテ法律ヲ以テ之ヲ一定スルコトヲ得ズ遂ニ

裁判所ヲシテ各場合ニ依キ一切ノ事情ニ照シ
テ認定ヲ為シムルノ已ムヲ得サレニ至リ
是レ即チ本条第一項ノ末文ニ於テ貸地ト看做
スコトヲ得ト明定セル所以ニシテ裁判所ハ此
ノ如キ不完全ナル通路ヲ有スル土地カ貸地又
ルヤ否ヤヲ認定スルノ権利ヲ有ス可ク而シテ
此認定ニ對シテハ上告ヲ為スコトヲ得心キニ
非ラズ
貸地ナリト主張セラシムル土地カ公路ト甚々
シキ高低ヲ為シ其間ニ崖岸アル場合ニ於テハ

ニキ高低ヲ知シ其間ニ崖岸アリ場合ニ於テハ

前ニ掲ケタル場合ト同一ナリ而已ト又ニ
裁判所ノ認定ニ任カヌ可キコト一層明カナリ
可シ多クノ場合ニ於テ高キ坂路ニ據リ僅カニ
公路ニ通ズルコトヲ得人如キ土地ハ其利用ノ
為ニ甚カ又便ヲ感ズルコト明カナリ然レトモ
此ノ如キ崖岸アリカ知シ其土地ヲ以テ袋地ト
看做スニハ公路トノ高低が著シキ場合ニ於テ
ノニ然ルヲ得心已且ツ此事情ノ為ニ一箇ノ土
地ヲ袋地ト認定スルニハ其土地ノ利用ノ方法
業務ノ種類等ヲ斟酌セザル可ク之ヲ軍ニ住居

用人家屋ヲ建築シタルニ止マレトキハ能ク
 公路ト其土地トノ間ニ多少ノ高低ヲ知シモ
 如以テ此事情ニ依リ袋地ナリト看做スニ足ラ
 井凡可ク是レ及ビテ工業又ハ農業用ニ供セ
 ラシタル土地ナリトキハ同一ノ高低ノ爲ニ或
 ハ袋地ナリト看做スニト又要ナリ可シ
 一方ヨリ考フルトキハ袋地ノ所有者カ圍籬地
 ニ通路ヲ求ムルニハ多少ノ償金ヲ拂フコトヲ
 要スルガ故ニ袋地ノ所有者ハ必要ナリシテ
 リニ此通路ヲ求ムル如キコト莫カルハシ或ハ

川ニ此通路ヲ求ムル如キコト莫カレハ此等ハ

或陸路ヲ有セズニテ軍ニ河海ノ通路ヲ有ス

ルニ止マリ又ハ其土地ト公路ト甚ク高価ヲ為

スモ是レガ為ニ必要ナル交通ヲ為シ得ベキ場

合ニ於テハ多少ノ負担ヲ顧ミルコトナクニテ

圍繞地ニ通路ヲ求ムルコト勿カレ可シ

元來公路ト直接ノ交通ヲ為シ得ベキ土地ニシ

テ土地ノ崩壞洪水又ハ土木工事等一種ノ事情

ノ為メ公路トノ交通ヲ遮断セラレタル場合ハ

法律ヲ以テ特ニ之ヲ規定スルコトヲ要セズ此

等ノ場合ニ於テ隣地ヲ通過スルニ由ラサレハ

公路ニ達スルニト能ハサルトキハ隣地ノ所有
 者等ハ何等ノ償金ヲ得ルコトナクニテ此通路
 ヲ供セザル可カラズ要スルニ此ノ如キ事情ヨ
 リニテ困窮ヲ生シタル場合ニ当リ之ヲ決スル
 ハ地方警察権ニ属スルモノナリ
 時トシテハ公路ノ廃止若クハ変更等ノ為メ永
 久ニ真正ノ袋地ニ生ズルコト有リ此場合ニ於
 テ行政権自カラ迄未だ道ノ所有地ニ新々ナル
 公路ト交通ノ道ヲ得セシムルコト能ハサルト
 キハ是レ又其土地ヲ圍繞セシ土地ニ向ツテ此

キハ是シ又其土地ヲ匡護セハ土地ニ白ツテ山

通路ヲ請求ス可キコト勿論ナリ此場合ニ於テ
通常行政権自カラ此請求ヲ為シ而シテ法律上
ノ地役ヲ確認且ツ履行セシム可シ

第二章 第九條

袋地ノ場合ニ於テ法律上ノ地役ニ依リ通路ヲ
得セシムルモ軍ニ人ノ使用ノ為メニハ此通
路ヲ得セシムルトキハ法律上ノ目的ハ未だ全ク
達セタリト認フ可カラザル所也ナラズ近ニド
其小部分ヲ達スルニ止マレリト認フヲ得ヤシ
從令袋地又ハ土地ハ住居用ノ家屋アハ場合ニ

止マレ場合ト多トモ仍ホ常ニ人ノ往來若クハ
日用品ノ運搬等ノ為メ馬車ノ通行ヲ必要トス
可キ住居用ノ土地ニ於テモ已ニ然リ矧ニヤ農
業高業又ハ工業等ヲ目的トスル空地ナル場合
ニ於テヲ又
空地ノ存在ハ建物ガ住居用ノモノナルト其他
農工業用ノモノナルトハ向ハズ其築造ガ空地
又ラカリシ以前ニ在リヤ將又空地ト为リテ後
築造ヲセラレタル者ナルヤハ之ヲ区別スルノ
必要ナレ何トナレハ孰シノ場合ニ於テモ通路

必要トシ何トナレハ孰シノ場合ニ於テモ通路

ヲ必要トスル経済上ノ利益ハ常ニ存スルモノ
ナレバナリ

空地が住居用ノ家屋ヲ有スルコトナクシテ其

利用ノ方法又ルヤ一年中或ハ季節ニ於テ作業

ヲ劣スノ必要アルニ止マレト例今ハ或ハ種

類ノ農業又ハ森林ニ実スル作業等ハ如キ場合

ニ於テ常則上此必要ノ季節ニ於テハニ通路ヲ

利ムルコトヲ得バシ然レドモ凡ソ土地ノ所有

者ハ常ニ自己ノ所有地ヲ監督スルノ権利アル

モノナリ故ニ空地ノ所有者モ亦常ニ其所有

又ハ袋地ヲ監視スルノ権利アリコトヲ認メサ
ル可クラズ茲ヲ以テ其監視ヲ行フ爲ニ必要ナ
ル通路ノ敷シノ時ニ於テモ隣地ノ所有者ハ之
ヲ拒ムコトヲ得ガレヤ勿論ナリ惟袋地ノ所有者
者ニ於テモ此権利ヲ濫用スルコトナキヲ必要
トス

實際ニ於テ当事者双方ガ協議ヲ以テ通路ノ場
所及ビ償金ノ額ヲ定ムルコト屢々ナリ可シ然
レトモ時トシテ此協議成立スルコト能ハサレ
場合ニ於テハ法律自カヲ規定ヲ定メサレ可カ

場合ニ於テハ法律自カヲ規定スル事又亦ハ可カ

之ニ立法者ハ此場合ニ於テ裁判所ガ標準トス
可キ二個ノ目的ヲ指示セリ其一ハ袋地ヲシテ
最大便益ヲ得セシムルニ在リ其二ハ通路ヲ供
ス可キ土地ノ損害ヲシテ最モ少ナラシムルニ
在リ

袋地ノ為ニ供ス可キ通路ハ一直線ニ之ヲ定ム

可キモノト規定スルニトナシ即チ其通路ハ最

短ノモノナルヲ要セズ何トナシハ袋地ノ所有

者ノ為ニ之ヲ考フルニ最短ノ通路ハ必ズシモ

是モ便宜ナリモノニ非ラズ時トシテハ尤モ不

便ナレモノタニ可シ蓋シ或ハ著シキ高低アリ

可ク或ハ岩石多キ部分ナレト有ル可ケレバ

ナリ又通路ヲ供ズル土地ノ所有者ヨリ之ヲ看

ルモ最短ノ通路必ズシモ損害ヲ與フルコト尤

モ小ナルニ非ラス至ク是レト相及ズルコト有

ル可シ何トナレバ此最短ノ通路ヲ得セシムル

ニハ從來承役地ニ存在スル樹木ヲ取除キ又ハ

重要ナル工作ヲ敷設スルコト必要ナル如キ場

合アリ可ケレバナリ

之ヲ要スルニ双方ノ利益ヲシテ充分ニ協和ヲ

之ヲ要スルニ必ズ其ノ利益ヲ以テ充テシメ協和ヲ

得セシムルニトヲ要ス實際ニ於テ当事者が協

議ヲ以テ事ヲ定ムルニト從ハサレハ承役地ノ

所有者が善意ヲ示サレニ依ルニト屢々ナレ可

ニ此等ノ事件ヲ審理スルキ裁判所ハ或ハ自カ

ラ實地ニ臨檢シ又ハ鑑定人ヲ命ジ是ニ由テ法

律ノ目的ヲ達セシムルニト必要ナレ可ク又決

シテ困難ノコトニ此ヲ示サレナリ

第ニ百廿五

袋地ノ所有者カ隣地ニ通路ヲ求ムルニ當テハ

此通路ノ為ニ隣人ノ蒙ル可キ損害ノ償金ヲ

糸濟セカシ可カラズト垂トモ此債金ヲ糸濟ス
 ルガ為ニ通路ノ設置ニ関スル費用ヲ負担スル
 ノ義務ヲ受ナルト能ハス例令ハ地均ニ等
 ノ費用ノ如キ又通路ノ維持ノ費用ヲ負担スル
 ノ義務ニ至テモ一ナリトス然レトモ家地ノ
 所有者ガ為ス可キ所ノ工事ハ自己ノ權利ノ行
 使ノ為メ必要ナリト信ズル程度ニ止マルコト
 ヲ得心ニ此ノ如クニ之テ後姪メテ相隣者間ノ
 善良ナル関係ヲ破ル如キ事ニテ辟スルコトヲ
 得心ニ

得心

承役地ノ所有者ハ袋地ノ所有者ヲシテ通路ヲ
 得セシメタル場合ニ於テ是ガ為メ建物又ハ樹
 木ヲ取除キ若クハ之ヲ変更セシムルコトヲ要
 之徑ツテ損害ヲ受ルル場合ニ於テハ之ニ對
 シテ一回限りノ償金ヲ請求スルコトヲ得心シ
 法文ニ於テハ特ニ樹木ト明記セリ若シ樹木ニ
 非ラズシテ其他ノ植物ニ関シ右ニ掲ケル如ク
 取除キ又ハ変更ノ為メ損害ヲ受タルコト有ル
 モ之ニ對スル償金ハ後ニ掲ケル償金中ニ包
 含セラレ可キモノナリトス元来地役ハ其傷方

又ハ受方ニ於テ永久ナルモノトス即チ要役地
ニ在テ地役権ガ永久ノモノナルト均シク承役
地ニ於テモ地役ノ負擔ハ永久ナルヲ以テ原則
ト爲ス然リト雖トモ此永久ナル性質ハ地役ノ
實質ニ於テ即チ必要ナル可ク下ルモノニ
於テ必ズ唯其普通ノ性質ナルニ過キズ故ニ法律
ノ規定ニ依リ又ハ人ノ意思ヲ以テ地役ヲ止テ
永久トスサレ性質ヲ有セシムルコトヲ得心ク
特ニ然ラザル場合ニ於テノミ地役ハ当然永久
ナルモノトス此事ナルヤ已ニ第二百四條ノ

十九ルモノト又此事又ルヤ已ニ第ニ百於四条ノ

下ニ於テ述ハタル如ク地役ノ定義中ニ於テ未
如永久ノ性質ナリモノヲ看サレナリ

通行地役ノ原因タル袋地ノ事情ハ通常ノ場合

ニ於テ之ヲ考フルニ決シテ永久無期ノモノト

シテ生スルコト是レ有ラザル可シ何トナレバ

袋地ナレ事情ヲ消滅セシム可キ原因ハ一ニシ

テ足ラズ就中新タル公路ノ施設セシメタル

ニ由テ往來ノ袋地ハ通路ヲ有スルニ至ルコト

有ル可ク或ハ袋地ノ所有者ハ現ニ法律上ノ地

役トシテ有スル通行権ヲ行フ土地ノ外ニ於テ

新又ニ土地ヲ取得シ是ニ由テ他人ノ土地ヲ通
行スルコトナクシテ公路ニ達スルコトヲ得ル
ニ至リタルトキニ於テモ亦空地タルノ事情ハ
消滅ス可シ或ハ空地ト是レが爲ニ通路ヲ供シ
タル承役地ト同一ノ人ニ属スルニ至リタル場
合モ是レト同一ナル可シ蓋シ此場合ニ於テハ
要役地ト承役地トノ混同ニ由テ地役消滅ス心
ニ

承役地ノ所有者が要役地ニ通路ヲ供スルが爲
メ其損害ノ償金トシテ法律ノ是レニ其フル所

又其損害ノ償金トシテ法律ノ是レニ其ノル所

ノモノハ單ニ毎年ノ償金ニ止マレ蓋シ是レ他
日或地又レニトノ已ム可キ場合ヲ豫想シテ設
ケタル規定ナリトス而シテ此第一種ノ償金ハ
之ヲ定ムルニ當ツテ左ノ二点ヲ基礎ト為ス可
キモノナリ第一通路ノ為ニ土地ノ一部分ヲ領
有セラレタルニ依リ承役地ノ使用收益ノ点ニ
於テ蒙ムル又レ減少第二種承役地ノ実價ノ減少
是ナリ

第二百廿一条

袋地ノ所有者ヨリ承役地ノ所有者ニ辨済ス可

キ償金ハ前在第二項ノ特別ナル事情アル場合
ノ外通常毎年ノ償金ノミナルヲ以テ貸地ニシ
テ他ニ通路ヲ得送ツテ承役地ニ強要シタル通
路不用ニ属シタルトキハ此原因ノ消滅ト共ニ
償金ノ義務モ亦其時ヨリ之ヲ消滅ス可シ然リ
ト多トモ当事者双方ニ於テ共ニ此事實ヲ主張
シ權利及ビ義務ノ消滅ヲ主張スルモノナキ時
ハ其関係ハ依然トシテ継続シ他日一方ノ者ヨ
リ此関係ヲ了セシメテト欲スルマデ更ニ異
ナルコト莫カル可シ要役地ノ所有者ハ他ニ償

十儿トト莫カ儿可ト要役地ノ所有者ハ他ニ僕

全ヲ拂フコトナクニテ公路ニ達スルヲ得ルニ

至リタル後依然償金ヲ拂フテ承役地ニ通路ヲ

取リ此事情ヲ変更スルコトヲ欲セザル如キハ

甚必解之可カラナク似タリト垂トモ或ハ袋

地ガ新又ニ得タル通路ハ甚又不便ニテ戸隘令

年々ノ償金ヲ拂フモ承役地ニ通路ヲ取ルコト

甚知利益ナクカ知ニ然ルコト有ル可ク承役地

ノ所有者ニ於テモ他人ヲシテ自己ノ土地ヲ通

行セシメ法律上ノ義務消滅シタル後ニ至ルマ

デ仍ホ之ヲ拒マザルハ普通ノ状態ニ及スル如

ことトモトモ一方に於て承役地が他人に
 供之たりと為之蒙り損害ハ甚々大ナルモ
 此之に於て且ツ毎年償金ヲ受クモノ
 ヲ知ラハ容易ニ之ヲ解スルコトヲ
 永久ニ毎年ノ負担ヲ有スルハ何人トモ
 困窮ヲ感スル所ナル可シ茲ヲ以テ其
 債務者タルモノハ早晩之ヲ受カレ
 ンコトヲ欲スルハ
 普通ノ情ナリ特ニ其負担ニシテ
 最モ然リト為
 ルモノニ於テハ最モ然リト為
 人貸地ノ場合ニ於テ要役地が
 貸地タルコト

入貸地ノ場合ニ於テ要役地カ貸地又ニ
 至リタル如キ即チ此ノ為ス此場合ニ於テ最
 後ノ一ヶ年ニ對スル償金ニ付テハ率ニ要役地
 ノ所有者カ通路ヲ使用シタルトキノ割合ニ應
 ジテ之ヲ辨済ス可シ本条第一項ハ実ニ此点ヲ
 決シタルモノナリ

第二項ノ法文ヲ以テ規定シタル場合ハ右ニ掲
 クル所ト同一ナラズ即チ新タル事實ノ生シ
 タルガ為ニ従来ノ貸地カ公路ニ達スルコトヲ
 得ルニ至リタル場合ニ於テ是レ貸地ノ所有
 者カ自カラ通行權ヲ放棄セシムコトヲ欲シタル

場合ナリトス袋地又ル事情か息ニ又ルニ此ノ
ルシテ其所有者が通行権ヲ放棄スル如キハ普
通ノ場合ニ於テ適當ノ例ヲ認ムルニ能ハシ
ル可シト多トテ例令ハ要役地カ河海ニ據ル
路ヲ有シ又ハ公路ト著シキ高低ヲ為ス場合ニ
於テ此事情ノ為ニ袋地ト看做サシ又ルトキニ
在リテハ此ノ如キ高例ヲ生ズルニト決シテ是
レナシト謂フ可トラズ或ハ其土地ノ所有者カ
車馬ノ通路ヲ必要トシ又ル利用ノ方法ヲ廢シ
又ルカ為メ從來ノ通路不用トナシト有ル可

又凡が先々從來ノ通路不甲トナルコト有ル可

ク或ハ不便ナル通路ニ満足スルニ至リ之が為

ニ此ノ如クナルコト有ル可シ

右ニ指シタル如キ種々ノ場合ニ於テ袋地ノ所

有者ハ毎年ノ僕金ヲ兼而スルノ義務ヲ免ナル

、が為ニ自カク其義務ノ原因タル權利ヲ放棄

スルコトヲ得心シ然レドモ權利ヲ放棄シテ是

レニ附着スル義務ヲ免カレシト欲スル場合ニ

於テハ義務ノ原因タル事情が實際ニ於テ消滅

シタル為メ当然其義務ノ消滅ヲ求メ又ニ場合ト

同一ナルコト能ハズ即チ袋地ノ所有者ヲシテ

仍亦其權利放棄、後六月分ノ償金ヲ年済セ
シムルモノトス

第二百廿二條

本条ノ貸地ノ所有者ト承役地ノ所有者トカ合
意ヲ以テ永久ノ損害ノ償金ヲ元本ニテ定メ又
ル場合ヲ規定セムノナリ蓋シ貸地ノ所有者
ガ法律上ノ義務トシテ辨済ス可キ所ノモノハ
已ニ述ベタル如ク毎年ノ償金ナリト云トモ是
レ特別ノ合意ナキ場合ニ於テ法律上ノ義務ト
シテ存スル所ノモノナリ故ニ裁判所ニ於テハ

之ヲ存スル所ノモノナリ故ニ裁判所ニ於テハ

之ヲ変更スルニト能ハストモ當事者ハ合
 意ヲ以テ是レニ及スルニトヲ得心ニ從ツテ毎
 年ノ償金ヲ定メ必ズテ元本ヲ以テ之ヲ定メタ
 ル場合ニ於テハ他日貸地タルニト息ニ從ツテ
 償金ノ義務消滅シタル場合ニ於テ此元本ヲ如
 何ナシ方法ニ從ツテ要分ス可キヤヲ定ムルニ
 ト必要ナリトス是レ本条ノ規定ヤル所以ナリ
 法律ハ一方ニ於テ當事者が永久ノ損害ニ對ス
 ル償金ヲ元本ニテ定ムルニトヲ許スト同時ニ
 他ノ一方ニ於テハ縱令當初ヨリ當事者が此合

言ヲ告ガズシテ毎年ノ償金ヲ弁済スル場合ニ
於テモ此義務ノ買戻シニ関スル機能ヲ許セリ
凡ソ其因ノ何々ニテ尚ハズ永久ニ毎年ノ弁
済ヲ告スル義務者ニ於テ困難ナルコト已ニ揭
ガル所ノ如クナルノミナラズ又屢々是レ加為
ニ双方ノ争ヒヲ生ゼシムルモノナリ此故ニ其
辨済ノ義務ニシテ一定ノ消滅期限ヲ有セズ永
久ニ継続ス可キモノナルトキハ法律ヲ以テ特
ニ義務者ヲシテ元本ノ弁済ニ依リ義務ヲ免カ
ルノ道ヲ得セシムルコトヲ要ス可シ

凡ノ道ヲ得セシムルコトヲ要ス可シ

然リト事トモ五年ノ償金ノ買戻シハ承役地ノ
所有^者ト要役地ノ所有者ノ間特ニ合意ヲ以テ之
ヲ譲渡シ且ツ此場合ニ於テ要役地ノ所有者ヨ
リ兼済ス可キ元本ノ額ヲ定メ又ルトキニ此ヲ
ガシハ奉条ニ於テ之ヲ許スコトナシ
貸地又ルコト息ニ位ツテ要役地ノ所有者償金
ヲ兼済スルノ義務ナキニ至リ又ル場合ニ於テ
ハ及對ノ合意特別ニ存在スルトキノ外要役地
ノ所有者ヨリ兼済シ又ル元本ハ常ニ其全部ノ
返還ハ請求シ得ベキモノトス(第二項)而シテ此

返還ニハ二箇ノ適用アルヲ看ル可シ其第一ハ
当初ヨリ元本ヲ以テ償金ヲ定メ而シテ要役地
ノ所有者ヨリ是レガ年流ヲ為シタル場合ニシ
テ其二ハ毎年ノ償金ノ買戻シノ為メ元本ヲ定
メテ要役地ノ所有者ヨリ之ヲ年流シタル場合
ナリトス

右ニ述ガル所ニ從ハル要役地ノ所有者が通路
ヲ使用シタル時間ノ長短如何ニ関スルニトシ
テ孰レノ場合ニ於テ凡テ償金ノ全部ハ要役
地ノ所有者ニ返還之可キモノトス是レ甚ク其

地ノ所有者ニ返還ス可キモノトス是レ甚ク其

当ヲ符ナルモノニ似タリト云トモ其実決ニテ

然ラズ何トナレハ承役地ノ所有者ハ要役地ニ

供シタル通路ノ為ニ蒙ハリタル損害ノ償ヒト

ニテ元奉ノ收益ヲ有シタル者ナレバナリ

法律ニ於テハ之ヲ明定セズト云トモ貸地ノ息

ニタル場合ニ於テモ時トシテハ右ニ掲ゲタル

元奉ノ返還ヲ為サシム可カラザルニト勿論ナ

リ即チ要役地ノ所有者が承役地ヲ受ケタル

為メ西個ノ土地一人ノ手ニ合シ混同ノ為ニ地

役消滅シタル場合是レナリ此ノ如キ場合ニ於

一 要役地ノ所有者が曾テ元本ヲ以テ償金ヲ年
 済シ若クハ毎年ノ償金ノ買戻シノ為ニ元本ヲ
 年済シタルコト有ルモ此等ノ償金ハ賣主タル
 要役地ノ所有者ヨリ買主タル要役地ノ所有者
 ニ向ツテ返還ス可キモノニ非ラズ蓋シ返還ノ
 義務ハ通行ノ地役ヲ受ケレタルニ基クモノニ
 一 承役地ノ所有者ハ已ニ土地ヲ賣渡シタル
 ヲ以テ通行地役ヲ受ケレタルト謂フコト能ハ
 サレバナリ且ツ古ノ如キ場合ニ於テハ当事者
 間ニ於テ賣買ノ價ヲ定ムルニ當リ必ズヤ承役

所
方
賣
買
價
主
人
之
金
額
ハ
其
地
ノ
要
役
地
ノ

地ノ所有者が受領シタル金額ヲ斟酌シタル可
ク宛カモ承役地ノ所有者が其土地ヲ要役地ノ
所有者ニ訓ラサレモノニ賣渡又場合ニ於テハ
譲受人ハ他日地役消滅ノ場合ニ於テ其金同ヲ
受役地ノ所有者ニ於テ償還スルノ義務ヲ引受
クル者メ賣主ニ白ツテ拂フ可キ代價ノ員數ヲ
小ナラシムルト同ク要役地ノ所有者ヨリ賣
買代價トシテ承役地ノ所有者ニ納シタル所ノ
モノモ決シテ大ナラサル可シ故ニ此賣買結了
シタル以上ハ再び償金ノ返還ニ存テ尙疑ヲ生

又可キモノニ非ラズ

第二百廿三条

本条ニ於テ規定ニ及ル特別ノ場合ニ在ツテハ
貸地ヲ生セシメタル懈急ハ率ニ貸地ト为リ又
ル部分ヲ取得シタルモノハ一身ノミニ存スル
モノニ非ラズ此部分ヲ譲渡シタルモノニ
在リテモ亦之ヲ受クルコト能ハズ従ツテ此
場合ニ於テ貸地ノ為ニ必要ナル通路ハ其土地
ノ譲渡人ニ於テ何等ノ償金ヲ受クルコトナク
之ニ供スルコトヲ要ス且ツ一般ノ理諦ヨリ

之ニ供ズルニトテ要ス且ツ一般ノ理許ヨリ

考フルニ一個ノ権利ヲ他人ニ譲渡シタルモノ

ノ常ニ譲受人ニ對シテ此譲受ケタル権利ヲ使

用スルノ方法ヲ担保スル義務アリモノナリ

本条ノ規定ハ特ニ法文ヲ以テ之ヲ定メタル場

合ニ於テモ仍古豪堅互ニ分割ノ場合ニ於ケル

担保ノ原則ニ基キテ之ヲ補足スルニトテ得心

ニ然リト多トモ明文ニ於テ之ヲ掲グルモ未だ

何等ノ害アリテ者ナリナリ此規定ハ地上権ノ

譲渡ノ場合ニ於テモ一ノ適用ヲ看ルニト有ル

可シ

此場合、於テモ亦貸地ナル事情ノ消滅ニハト
同時ニ地役権ハ当然消滅之可ク而シテ何等ノ
償還ヲ要セザルモノナリ何トシバ当初ニ於
テ要役地ノ所有者ヨリ何等ノ償金ヲ未流セザ
リシガ故ニ地役消滅ノ時ニ至リ承役地ノ所有
者ヨリ償還ス可キ所ノモノ是レ有ラザルハナ
リ然レドモ本条ニ掲ゲタル特別ノ場合ニ於テ
ル貸地ハ無償且ツ公共ノ利益ナル公路ガ新々
ニ開設セラレタル為メ貸地ナル事情止ムニハ
ラオシハ地役消滅セザルモノト爲ス此故ニ若

ラナシハ地役消滅セナレモノト告ス此故ニ若

ニ要役地ノ所有者が隣地ヲ取得シ又ハ合意ニ

由テ他ノ通行權ヲ取得シ又ハ場合ニ於テモ未

知地役權ハ消滅スルモノニ非ラズ

第二款 水ノ疏通使用及ヒ引入

本款ニ於テハ凡テ水ニ関スル要規ヲ規定セリ

然レトモ善意ヲ以テ設定シタル負擔ハ法律上

ノ地役トシテ規定ス可キモノニ非ラザルコト

勿論ナリ

故ニ先ツ本款ニ於テハ土地ノ自然ノ高低ニ基

ク水ノ流下ニ関スル地役ノ規定ヲ看ル可シ(第

二百廿四条及七(第二百二十六条)是レ、次イテ
規定之ル所ハ雨水ニ付キ相隣者ヲ害ス可カラ
井ル各所有者ノ義務ナリ(第二百二十六条)猶ホ
泉水及ビ流水ニ関スル使用権ノ制限ヲ規定シ
(第二百二十七条)乃至(第二百三十二条)塚ニ水路
ノ権利ニ関スル事項ヲ規定セリ水路ノ権利ト
ハ或ハ灌溉ニ必要ナル水ヲ引入ル、為メ或ハ
土地ヲ乾燥セシムル場合ニ於テ水ヲ排泄セシ
ムル為メ隣地ヲ通シテ水路ヲ設置スルコトヲ
得ルノ権利是レナリ(第二百三十二条)乃至(第二

得ルノ権利是ナリ(第二百三十二条)乃至第二

百三十七条

第二百二十四条

本条ニ於テ第一ニ規定スル所ノ地役ハ時トシ
テ土地ノ位置ニ基クモノトシ然ツテ自然ノ地
役ト称セラル、所ノモノナリ蓋シ均シク水ニ
関スル地役ナリト云トモ本条ニ規定スル所ハ
雨水若クハ泉水ノシニ関シ家用又ハ工業用ノ
餘水ハ至久本条ニ関係ナケレバナリ
本法ニ於テ此地役ヲ法律上ノ地役ト為シタル
理由ニ至ツテハ已ニ前段ニ於テ之ヲ詳述セリ

水ハ修キニ就クコト自然ノ勢ニニテ站コト
人カヲ以テ之ヲ止メ得ベキモノニ非ラズ能令
最小ナル水流ト垂トモ之ヲ止メテ多少久ニキ
ニ至ルトキハ遂ニ非常ノ損害ヲ興フルノ水ト
ナルニ至ル可シ

法律ハ此自然ノ勢カヲ侵サズニテ之ヲ確認セ
リ蓋己立法者ノ力ヲ以テ修地ノ所有者ノ義務
ヲ受カシシメ高地ヨリ流下スル水ヲ受ケサレ
ヲ得セシメントスルモ到底其目的ヲ達シ得ベ
キニ非ラズ法律ノ力ヲ以テスルモ水ヲ止テ其

キニ此ノ又法律ノカヲ以テ之ルモ水ヲ之テ其

源ニ溯ラシメ得心キモノニ此ヲ必ス然レトモ若

シ水ノ流下ガ高地ニ於テ人カヲ用甘作業ヲ為

シタルニ美之ルモノナレトキハ未タ自然ニ基

クモノト謂フコトヲ得ズ徑ツテ本条ニ掲ケ又

ル法律上ノ義務ハ低地ノ所有者ニ屬スルコト

ナシ

此ノ如クナレバ以テ低地ノ所有者ニ水ノ流下

ヲ受クルノ義務アルトモトモ其流下ガ自然ニ

基クモノナレバ又ハ人工ニ由テ然レモノナレ

バニ依リ分ル、モノナレドモ人類ノ群集セル

市并其他ノ土地ニ於テハ果シテ土地ノ高低が
古来何等ノ人工ヲ施シタルニト莫ク至ノ自
然ニ出テタル者ナリヤ吾ヤハ今日ニ於テ之ヲ
知ルコト甚カク困難ナルハ普通ノ状態ナリトス
加之ナラズ殆んど多少ノ人工ニ由テ形状ノ変
更ヲ受ケサレ土地ノ形多クナリ可シ例今ハ低地
ハ土砂ヲ以テ之ヲ高くシ傾斜ヲシトキハ是レ
ニ変更ヲ加ヘタル如キ是レナリ然レドモ其
事々レ歲月ヲ経ルニ從ツテ何人ト云トモ之ヲ
記憶セザルニ至リ多少是レが記憶存スル場合

肥瘠也、下ノニ至リ多少是レカ肥瘠存スル場合

ニ於テモ仍古其證明ヲ為スニト因致ナシ可シ

此ノ如キ事情ナレニ一方ニ於テ低地ノ所有者

ハ故百身ノ後ニ於テ往時人工ヲ施シテ地勢

ヲ変更シタルニトテ證明ニ高地ヨリ流下スル

水ヲ受ケサレニトテ得人モノトセ人是レカ為

メニ高地ノ崇ムル所ノ損害ハ非常ニ大ナシ可

ク且ツ屬々土地ノ状態ヲシテ舊時ノ如クナレシ

メ水流ヲシテ旧状ニ復セシムルニト能ハサレ

可シ

右ニ塔ノ如キ理由アルカ為メ本法ニ於テハ

能令人工ヲ以テ水ノ疏通路ヲ創設シ又ハ之ヲ
変更シタル場合ニ於テモ其工事か年月ヲ知ル
可カラスナル場合ニ於テハ至ク人工ニ依ラズシ
テ天然ノ地勢ニ依リ疏下スル水ト同シク低地
ノ所有者ニ於テ之ヲ受クルノ義務アルモノト
以テ更ニ一步ヲ進メ能令工事ノ年月明カナル場
合ニ於テモ已ニ三十九年以前ニ在ルモノハ年
月ヲ知ル可カラサル場合ト至ク同一視セリ
或ハ外國ノ法律ニ在ツテハ此事項ニ異シテ更
ニ二箇ノ規定ヲ設ケルモノ有リ然レトモ本法

二 二箇ノ規定ヲ設ケルモノ有リ然レトモ本法

ニ於テハ明文ニ掲グルルノ必要ヲ認メザリシヤ

リ其一ト低地ノ所有者ハ水ノ流下ヲ妨ル可キ

工事ヲ為スニトテ得ズトノ規定ニシテ其ニハ

是レト同一ノ理ニ依リ高地ノ所有者ハ水ノ流

下ヲ甚カシカラシム可キ變為ヲ為スニトテ得

ズトノ規定ナリ

此二箇ノ規定ハ實ニ各用ノモノト認ム可ルヲ

得ル若シ低地ノ所有者ニシテ堤防其他ノ工事

ヲ為シ是レニ由テ高地ヨリ流下スル水ヲ妨ル

ル如キ事為ヲ為スニトテ得ルモノトモ是レ

至ク水ノ流下ヲ受クルノ義務アリテ故ナ
リ已ニ之ヲ受クルノ義務アリト謂フ以上ハ斯
ルニ事ヲ為スノ権利ナキコト年ヲ竣タスルニテ
明カナリ所ナリ高地ノ所有者ノ権利ニ至テモ
是レト同一ナリトス若シ水ノ流下ヲシテ甚カ
シカラスニムルコトヲ得バ其流下ハ自然ナリト
稱スルニトヲ得ズ守テ第ニ百二十四番ノ法文
ニ所謂人工ニ由ラズシテ流下スルモノニ此レ
ニ然ルニ此ノ如キ低地ノ所有者ニ流下シ
テ受クルノ義務ナキが故ニ高地ノ所有者ニ流

ヲ受クルノ義務ナキが故ニ高地ノ所有者ニ於

テ之ヲ流下セシムルノ権利ナキハ是レ又水力
ナル所ナリ

右ノ理ニ基クトキハ高地ノ所有者ハ其土地ヨ

リ低地ニ向テ流下ス可キ水ヲ一個又ハ數個ノ

水流ト為スコトヲ得ズ何トナシ此ノ如ク集

マリタル水ノ流下ハ低地ノ為ニ損害ヲ加フル

コト大ナル而已ナラズ已ニ人工ヲ施コシタル

モノナリ以上ハ低地ニ於テ之ヲ受クルノ義務

ナキ所ナリハナリ高地ノ所有者ハ其所在地内

ニ於テ隨意ニ水ヲ使用スルコトヲ得ルキハ勿

論ナリ故ニ是レガ由ニ必要ナル場合ニ於テハ
要々ニ之ヲ採用スルコトヲ得心シト爲トモ低
地ニ向テ之ヲ流下セシムルニ當テハ土地ノ自
然ノ高低ニ由テ定マリタル自然ノ流下ニ従セ
シムルコトヲ要ス

高地ノ所有者が穿タシメタル噴井又ハ其生セ
シメタル泉水ハ自然ノ水トシテ低地ノ所有者
ニ於テ之ヲ受クルノ義務アルヤ否ヤハ多少困
難ナル問題ナル可シ此場合ニ於テ高地ノ所有
者が工事ヲ施シタルコトハ明カナルが故ニ

若か工事ヲ施スニ父ルコトハ明カナルガ故ニ

此一率ニ由リ法律上ノ地役ト稱ス可カラス
モノ、如シ然シトモ他ノ点ヨリ考フルトキハ
已ニ水ガ地上ニ出テ父ル後ハ自出ノ傾斜ニ從
ツテ隣地ニ流下スルモノニシテ更ニ人工ヲ加
ヘ父ルモノニ水ヲ必ズ從ツテ仍ホ本条ノ規定ヲ
適用シ得心キモノ、如シ若シ此等ノ困難ヲ辟
クルガ爲ニ高地ノ所有者ヲシテ噴井又ハ泉源
ヲ閉塞セシムル如キト到底爲シ得心キ所ノモ
ノニ水ヲ必ズ此ノ如キ場合ニ在ツテハ到底其水
ヲ低地ニ流下セシメ而シテ低地ノ所有者ノ損

害ニ對シ債金ヲ弁済セシムルノ届アリノ三又
 此ノ如キ場合ニ於テハ茲レド公路ニ達スル能
 ハ井ノ泉地ガ圍繞地ニ對シテ通路ヲ利ムル場
 合ト甚ク相類スル事情在スト云フコトヲ得ベ
 シ從ツテ第二百十八条ノ場合ト類似セシ決定
 ヲ爲スコトヲ要ス可シ
 高地ノ所有者カ他人ノ土地ヨリ引來リタル水
 ニ関シテモ亦同一ノ問題起ル可シ何トナシハ
 一旦引來リタル水ヲ更ニ其泉源ノ地ニ返還セ
 ント欲スルモ泉源ノ所有者ニ於テ之ヲ欲セザ

二ト欲之凡天泉源ノ所有者ニ於テ之ヲ欲セサ

ルトキハ他ノ低地ニ白テ之ヲ流下セシムルコト止ム可カラズルニ至レバナリ

右ニ指ケ又ハ場合ニ於テ裁判所ハ屢々償金ノ

方法ニ由テ其例題ヲ決之可シ即チ人工ニ由テ

生ム又ハ噴井又ハ泉源ノ水ヲ以テ灌漑用ノ為

メ他ノ土地ヨリ引来リ而シテ之ヲ使用シ又ハ

残餘ノ水ト同一ノ決定ヲ為之可シ此占ニ冥ニ

テハ第一第二三十四条ニ至リ灌漑ニ供シ又ハ残

餘ノ水ハ償金ヲ拂ツテ低地ニ流下セシムルコト

トヲ許セハ規定アルヲ看ル可シ

修地ノ所有者ハ高地ヨリ流下スル水ヲ自己ノ
土地内ニ於テ使用スルコトヲ得ベシ然ツテ其
使用ノ方法トシテ損害ヲ生ズル最モ少キ部
分ニ之ヲ接用スルコトヲ得ベシ

法文ハ惟水ノ質ニテ規定ヲ為スニ止マレリト
考トモ其水ト共ニ流下スル土砂等ニ至テハ均
ニク修地ノ所有者ニ於テ之ヲ受クルノ義務アリ
ルコト明カナリ此点ニ於テモ仍ホ常ニ自然ニ
出ツル場合ニ於テノ修地ノ所有者ニ義務アリ
ルコトヲ注意スルニ山前ノ地方ニ於テハ自然

凡コトヲ注意スルニ山崩ノ地方ニ於テハ自然

ノ水ノ為ニ屢々土砂ヲ流下セシム後ツテ非常
ノ損害ヲ蒙ルルコト妙カヲ心此ノ如キ場合ニ
於テハ旧状ニ回復シ充多ノ工價ヲ告シ得ルニ
ハ妙カヲサレ歳月ヲ要スルコト屢々ナリ然レ
トモ之ヲ豫防スルニ必要ナル工事ヲ告スル高
地ノ所有者ノ責任ニ非ラズ己テ低地ノ所有者
ガ自カラ受ケル能ハサレ所ナリ

是レト類似スル問題ニ至テ左ノ又對ノ場合生
ズルコトヲ得心ス即チ高地ノ所有者ハ水ノ為
ニ低地ニ流下シタル土砂等ヲ取戻スノ権利アリ

リヤ系ヤノ凶悪是ナリ

若し此土砂ノ取戻シノ為メ更ニ新又ナリ損害

ヲ低地ニ加フルコトナク又其当時低地ノ所有

者ニ於テ新又ニ堆積^{ニ及}ル土砂ノ上ニ工作ヲ為

サツル場合ニ於テハ此取戻ヲ拒ムノ理由強シ

ト是レ有ラサル可シ是レニ及ビテ若し低地ノ

所有者已ニ**正**作ヲ始メタル場合ニ於テ高地ノ

所有者ハ其土砂ヲ任意ニテ棄棄シタルモノト

シテ其積堆ハ退ケラレ可シ

第二頁二十五条